



<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたいていと言え学校でありたい
 飯能西中学校スクールアイデンティティー

叱ることについて考える

校長 中村 公一

師走を迎え、今学期もあと2週間ほどで終業を迎えます。朝夕の冷え込みも一段と厳しさが増し、いよいよ冬本番の到来を感じるようになりました。つい先月までは夏日のような暖かい日が多かったため体調を崩す人も多いようです。特に急激な気温の変化があると呼吸器に負担がかかるため咳など風邪に似た症状が出ることもあるそうなので引き続き体調管理には気をつけたいものです。

さて、最近インターネット上に溢れている様々なニュースや論評を見ていて「叱ってもらえないZ世代」というタイトルの記事が目にとまりました。このZ世代という言葉ですが最近をよく耳にするようになりました、簡単に言ってしまうと1960～1980年生まれで、高度経済成長が終わった後を育ってきた私達のような世代をX世代と呼び、X世代の子供にあたる世代のことをZ世代と呼んでいるようです。そもそもX世代という言葉の語源なのですが、戦後の復興と発展が一段落して豊かさや繁栄を迎える中で、どこに向かうのかわからない未知なる世代ということから、私たちのような概ね40歳から60歳にあたる世代のことをGeneration X、すなわちX世代と呼ぶようになったようです。そしてX世代の子供にあたる世代をZ世代、その間にあたる世代をY世代(ミレニアル世代)と呼び、Z世代の後に続く世代、つまりY世代の子供にあたる世代をα世代と呼ぶそうです。ただ、これらのことについてはインターネット上で見つかった記事の受け売りなので正確さを欠いていたり、誤っていたりするかもしれません。

ところで、叱ってもらえないZ世代とはどのようなことを言っているのでしょうか。大雑把にまとめてみるとZ世代と呼ばれるような最近の学生や若手の社員などは、叱られるとすぐに折れてしまし、叱ったことをパワハラとして逆に訴えられることがあるため叱ることを躊躇ってしまうので、結果的に叱られないことで大切なことに気づけなかったり、チャンスを逃してしまうこともあるので不幸なのではないかというものです。検索してみると同じような論調の記事や動画がネット上にはたくさんあるようで「叱られないのは不幸せ」「叱られない不幸な子供」など他にもいろいろありZ世代に限ったことではなさそうです。これらをよく読んでみると多くの出典元が個人の掲示板であり、同じような意見を持った人たちの間で共感呼び合っているような主張が広がっているように感じます。それらの記事の中には、ある有名なスポーツ選手が、『最近では指導する側が厳しく出来ないのも、指導される側が自ら厳しくしないといけない』と言っていると紹介し、自らの主張を裏付けているものもあります。これらを読んでいると確かにそうかもしれないというような気持ちになってきます。そこで叱らないことや叱られないことがいけないという論調が世の中の大勢を占めているのかどうかを調べるために、「叱る」「叱られる」という言葉をキーワードで更に検索を続けてみると、「叱らない子育てをするべきだ」とする主張と「叱らない子育てでは失敗する」という主張の両方があることがわかるのです。このようにネット上には一見して相反するような主張が溢れており、どちらも読んでみるとそこで述べられていることに間違いは無いように思えます。

「叱る」と「怒る」の違いから考える

子育てについての相談でよく言われるのは、叱ることと怒ることは違うということをよく理解する必要がありますということ。叱るというのは相手のためになるようにアドバイスや注意を与えることであるのに対し、怒るというのは相手に自分の不満を感情的にぶつけることです。頭の中でそ

のことは理解できるのですが、使い分けるのはそう簡単ではありません。相手との関係が仕事上の表面的なものであれば感情を抑えて冷静に話すことも出来ましょうが、親子関係や師弟関係のように親密な間柄になってくると、相手が自分の思うようになってくれないことに怒りを覚え、それを感情的にぶつけてしまいがちなのです。ですから叱っているつもりであっても実は怒っているということが多いのです。怒るというのは声や表情などで相手を威圧し不快な感情を相手に抱かせる行為ですから、そのような不快な感情を避けるために相手は表面上は言うことをきくように振る舞います。しかしそれは怒られるのを避けるために行動しているのであって、自らの意思で行動を改めているわけではありません。そもそも叱られるということは、自分に落ち度があったにせよ自分の行為を否定されているわけですから気分のいいものではありません。心の準備が無ければ心穏やかにはいられないものなのです。ですから叱られて改めるよりも自ら気がついて改める方がいいのは間違いありません。このことを考えれば叱らない子育てがいいのではなく、叱らなくて済むような子育てがいいのだと言えるわけです。けれども周りに迷惑をかける行為、相手の心や体を傷つける行為、法律に背く行為があった場合には叱らないで済ますわけにはいきません。むしろ納得するように叱らなければならないでしょう。私たち教員の仕事もこのことを忘れてはならないと思います。

ところで、親や学校の先生以外にこのように叱ることと怒ることを明確に区別して接してくれる人はどれだけいるのでしょうか。世の中に出ればそんな配慮をしてくれる人がいつもいるわけではありませんし、むしろ理不尽なことを言う人の方が多いかもしれません。厳しい言い方をされたからといってその度に心が折れて仕事を変えたりしては生き抜いてなどいけません。あくまでもバランスが大事なのですが、ある程度は叱られることにも慣れていく（慣れさせていく）必要があるのでしょうか。

今回は大変長い文章になってしまいました。次号に続きます。

今年の終わりにあたり考えてほしいことがあります

生徒の皆さんへ

みなさん、もうすぐ2学期が終わりますね。未だにインフルエンザなど流行性の疾病の影響は大きいもののコロナ禍についてはいったん終息の兆しが見え始め、学校行事などにおいてみなさんが積極的に活動している様子が見られたのがなによりです。最近、みなさんの中で清掃に一生懸命に取り組んでくれる人や、挨拶を積極的にしてくれる人が増えてきているのをうれしく思っています。お客様の中には「学校の中がきれいですね」とか、「気持ちのいい挨拶をしてくれますね」と褒めてくださる方もいます。着実に学校の雰囲気も変わってきているのだと思います。掃除とか挨拶は仕方なくするものではありません。自ら進んで行ってみればそのほうがよっぽどいいということがわかる生徒が増えてきたからなのだと思います。みなさんこれからも頑張ってくださいね。期待しています。

さて、毎年この時期になると言っていることなのですが、12月8日がどのような日であったか覚えているのでしょうか。これは82年前に、日本がハワイにあるアメリカ軍基地を一方的に攻撃し、それから4年にも及んで数百万人の犠牲者を出した太平洋戦争を始めた日です。結局、広島と長崎に原子爆弾を落とされるまで戦争をやめることができませんでした。これは、当時の日本人が愚かだったという簡単なお話ではありません。戦争というものは一旦始めてしまうと誰にも止めることが出来なくなってしまうものなのです。ロシアとウクライナの間で始まった戦争も未だに終結の兆しは見えていませんし、それどころか今年にはイスラエルのガザ地区でもパレスチナとの間での紛争が再燃して激化しています。戦争を起こすのは簡単であるが終わらせるのは難しいということをしっかり心に刻み、将来みなさんはこのことを自分たちの子どもにきちんと伝えられる大人になってほしいと思います。

○ 12・1月の主な行事予定 ○

12日 (火) 3年三者相談	2024年
15日 (金) まで	1月8日 (月) 成人の日
15日 (金) 1・2年、とうのす保護者会	9日 (火) 3学期始業式
18日 (月) 4時間授業	10日 (水) 給食開始、自転車点検
19日 (火) 4時間授業、部活動なし	16日 (火) 生徒会朝会
20日 (水) 4時間授業、大掃除	17日 (水) 避難訓練
21日 (木) 3時間授業、掃除なし、部活なし	20日 (土) 市内書きぞめ展 20日(日)まで
22日 (金) 2学期終業式	今年度は本校体育館で行います